

佐渡の輝きを世界の輝きへ

佐渡



佐渡を世界遺産に

佐渡金銀山

400年以上にわたって輝き続けた金の島・佐渡。佐渡では鉱石の採掘や金銀の製錬だけでなく、貨幣(小判・印銀)の製造も行われ、その一連の技術工程がひとつの鉱山で完結していたことが大きな特徴です。砂金採掘のために切り崩された山、鉱石の露頭掘り・坑道掘りの跡、西洋から導入した技術による堅坑や製錬施設など、佐渡には、人類が獲得したほぼ全ての鉱山技術を見ることができる遺跡と、鉱山を支えた人々が暮らした鉱山集落や鉱山町の景観が今も鮮やかに残されています。

佐渡の金銀山開発は、16世紀半ばから本格化しました。江戸時代には日本最大の金銀山として世界有数の産出量を誇り、幕府の財政を支えました。佐渡には金銀山を目標として全国各地から大勢の人が集まり、最盛期には約5万人もの人が暮らした鉱山町・相川が誕生しました。明治時代には、西洋技術の導入と日本独自の技術革新によってさらに採掘量が増加し、日本の近代化の一翼を担いました。佐渡で確立された鉱山技術は、国内各地の鉱山開発にも大きな影響を与えました。

世界遺産推進基金の寄付金募集

新潟県教育庁文化行政課世界遺産登録推進室
HP: <http://www.pref.niigata.lg.jp/bunkagyosei/1196266594688.html>
TEL: 025-280-5726

佐渡市世界遺産推進課
HP: <https://www.city.sado.niigata.jp/mine/>
TEL: 0259-63-5136



道遊の割戸 (どうゆうのわりと)



北沢浮遊選鉱場 (きたざわふゆうせんこうば)



50メートルシクナナー



大立堅坑 (おおたてたてこう)



大間港 (おおまこう)



道遊坑 (どうゆうこう)

ユネスコ世界遺産暫定一覧表記載

「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」

佐渡金銀山は、2010年11月に世界遺産候補として世界遺産暫定一覧表に記載されました。